

8保連第1号

(令和 8 年9月)

発行：宇治市乳幼児教育・保育支援センター

アドレス：nyuyojicenter@city.uji.kyoto.jp

乳幼児教育・保育推進事業 通信 ～令和8年度 保幼小連携専門部会～

令和8年7月6日（月）に、令和8年度第1回宇治市乳幼児教育・保育推進協議会 保幼小連携専門部会を開催いたしました。
部会の様子をお知らせします。



令和8年度第1回の主な内容

検討

- (1) 第1回架け橋ブロック会議の実施状況等を踏まえた、保幼小連携の進め方等について
- (2) 保幼小連携についてのチラシ等を用いた、職員への周知方法等について



専門部会とは

「研究・研修」「保幼小連携」「発達・子育て支援」の推進にあたり、現状の把握、課題抽出、対応策の検討、研究・研修の企画実施について、乳幼児教育・保育の実務をよく知る職員の意見を反映できる仕組みとするために設置したもの。





(1) 第 1 回架け橋ブロック会議の実施状況等を踏まえた、保幼小連携の進め方等について

令和8年度第1回架け橋ブロック会議の状況について乳幼児教育・保育支援センターから報告を受けるとともに、各部会員からは自園が所属するブロックの交流事業実施にあたっての成果・課題等を挙げてもらい、取組内容等を各ブロックにおいて大きな負担なく決めていけるような手法等について意見交換を行いました。

【部会員の意見等】

- ・「小学生と幼児が一緒につくり上げる活動」にするための事前の共通理解や打合せが重要である。
- ・ブロック内で参加する園校の組合せを変えながら柔軟に計画し、無理なく継続できるようにしたい。
- ・交流の継続により見えてきた課題からねらいを明確にし、子どもたちがペアを意識できるよう働きかけることにより、ブラッシュアップしてスムーズに実施できた。
- ・交流終了後に振り返ることは非常に大事。再度集まらなくて良いようにフォーマットを作成し、書面での交流を行っている。
- ・架け橋期の先の連携を意識した中学校の授業参観など今後も意識することは大切。
- ・給食交流は複数の事例があり、人数調整や施設面の工夫など事前の協議を重ねられた。
- ・前年度中に第1回ブロック会議の日程や場所、持ち方を決めておくとな年度にスタートしやすい。
- ・先生同士が対話したり、子どもの姿について振り返る「時間の確保」や、「年度が変わると引き継がれなくなる」という課題も見えてきている。



(2) 保幼小連携についてのチラシ等を用いた、職員への周知方法等について

今年度に乳幼児教育・保育支援センターにおいて作成した、各施設の職員に向けた保幼小連携のチラシ及び市ホームページの内容についてセンターから報告を受け、保幼小連携の担当者以外の職員にも十分に周知していけるような手法等について意見交換等を行いました。

【部会員の意見等】

- 市ホームページ掲載の取組事例は、もう少し無理なくできるものも掲載した方がよい。
- 交流事業等の根本的なねらいや目的を共通理解し、各施設でできることから考えていくことが重要である。
- 小学校では引き継ぐ内容が膨大にあり、保幼小連携もその中の1つである。そこをうまく引き継いでいかなければならないのが小学校の仕組みであり、難しい点である。
- 保幼小連携を担当された先生が、異動先の学校でもその取組を広げることができれば良い。
- 小さな頃からのつまづきや課題を抱える子が、その子個人の歴史や成長のプロセスが語られないまま小学校へ進学するのではなく、連続性を持った形で理解されるようになることが重要である。



宇治市乳幼児教育・保育支援センターとは

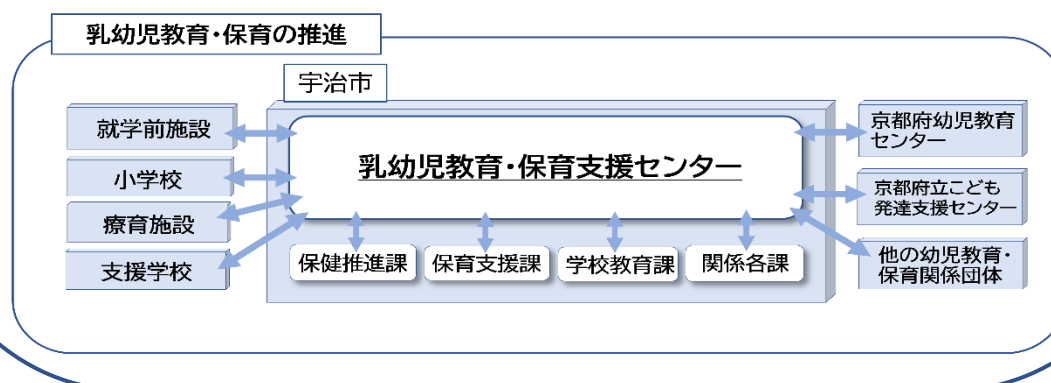
宇治市乳幼児教育・保育支援センターは、全ての就学前施設が施設類型を越えたネットワークを構築し、乳幼児期の子どもたちの状況や課題を共有するとともに、将来を担う子どもたちが健やかに成長できるよう、次の3つの機能に基づく施策を推進することにより、保育士、教諭等の人材育成を図り、もって乳幼児教育・保育の質の向上に資することを目的として、令和7年4月に開設しました。

<3つの機能>



宇治市では、センターにおいて、就学前施設、小学校、療育施設及びその他の関係機関が連携・協働できるようコーディネートすることにより、施策を推進します。

<連携・協働のイメージ>



宇治市乳幼児教育・保育推進協議会とは

すべての就学前施設が施設類型を越えたネットワークを構築すべく、乳幼児期の子どもたちの状況や課題を共有し、連携、協働して研究・研修を行うことで、教育・保育の質の向上及び人材育成を図るとともに、各施設間、家庭・地域の教育・保育力の確保・向上を支援するため、設置したもの。